

都島だより

発行責任者

松本 信行

〒230-0076  
横浜市鶴見区馬場3-8-11  
TEL 045-571-2521



一般社団法人浪速工業会  
都島クラブ会報

2015年(平成27年)1月 第50号

事務局 馬江 治喜

〒234-0056  
横浜市港南区野庭町696-6  
TEL045-841-8885

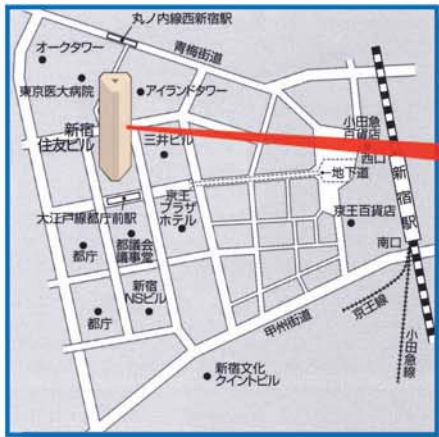
E-mail har1942umae@iris.ocn.ne.jp

題字デザイン A28岡田 宏三

NEWS50号

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ 現在会員数 ◆ 合計519名

◆M・機械105名、ME・機械電気25名◆A・建築91名◆E・電気・電子工学169名◆C・土木・都市工学44名◆C I・工業化学・理数58名◆L・普通14名◆工専13名



新宿住友ビル47階



東京住友クラブ  
にて開催!!

交通のごあんない  
JR(新宿駅西口)より 徒歩8分  
東京メトロ丸ノ内線(西新宿駅)より 徒歩3分  
都営地下鉄大江戸線[都庁前駅] 直上

平成26年度  
総会のご案内

一般社団法人浪速工業会 都島クラブ (関東支部を改称)  
今年度の総会を左記の通り開催いたします。  
ご多忙中のこととお察し致しますが、万障お繰り合  
わせの上ぜひご出席ください。

●日時 平成27年4月25日(土) 13時~16時

●場所 東京住友クラブ

新宿区西新宿2・6・1 新宿住友ビル47階  
TEL:03-3344-6285

●親睦会費 7,000円(女性会員は4,000円)  
平成年度卒業会員は無料!

※同封の返信はがきに出欠をご記入の上、

3月30日までに必ず投函して下さい。

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ総会

2015年4月25日(土)  
13:00 開会



昨年度総会の様子

同期・先輩・後輩お誘いあわせの上  
多数ご参加ください

昨年度の総会ご出席者

来賓	山崎 充理事長 田 孝一 校長			
機械科	M14松原 滋	M26上田英雄	M34石川芳夫	M36尾崎利明
	8名	M36西村 功	M38仲西 正	M42前田範行
			M42山口忠雄	
機械電気科	ME40難波省三	ME40松本良治	ME41岩地 馨	ME-H16岡崎 彰
	4名			
建築科	A27清井英治	A28岡田宏三	A28酒井 保	A36光山恵治
	8名	A37森 芳信	A44水守恵子	A57信原利行
				A63富田博行
電気科	E20真鍋静夫	E29小林孝榮	E35田中 浩	E35芳仲 宏
	10名	E36赤尾仁史	E36石垣英明	E36馬江治喜
		E36細川 俊	E48紙谷広幸	E36笹治博司
土木科	C33明見和彦	C33松本信行	C40細見 隆	
	3名			
工業化学科	CI34柴田孝次	CI34田中忠三郎	CI38岩井 誠	CI40菅家亘通
	4名			

参加者37名+来賓2名 合計39名

祝

M NEWS

50号

Mニュース50号

おめでと〜うございます



M 26 上田 英雄

平成元年6月の創刊以来もはや25年、よくも継続出来ました事、そのご努力に心から祝い申し上げます。昭和62年8月関東白羊会の関白ニュースから拡大発展した本会報は、関東浪速工業会の機関紙として会の情報や動向の他に、昔の思い出や初参加の会員の感想等その内容も多岐にわたると思います。創刊時各科代表相寄り何回もの打ち合わせの末にやっと1号の発刊に至ったことは関わった者としていい思い出です。ある時は編集者同士の行き違い等もあり何か気まずい事もありましたが、その後紙面作りも号を追うごとに充実し建築科卒の方々のご努力で今日に至っている次第です。もとより機関紙としての内容を考えると、限られた紙面で情報を伝える時やはり行事の告知・その報告が第一義と思われまます。でも一時は紀行文や感想文で紙面が埋まった事もありましたが、現在の形がベターと考えます。Mニュースが大きく変わったのは31号からダブロイド版からA3サイズ二つ折りになり、その取り扱いも便利になりました。また38号からの写真印刷は目を見張るものがあります。時代の変遷と共に母校新卒上京者の減少により関東の会員の高齢化が心配される時でも、年間行事がよく継続され紙面を賑わしておりますのも各幹事のご努力によることと言いうまでもありません。何卒Mニュース50号へと継続されんことをお祈りして記念号へのお祝いいたします。

会員に愛されて読まれる 会報誌を目指して!

一般社団法人浪速工業会 理事長

M E41 岩地 馨



新年明けましておめでと〜うございます。都島クラブの会員の皆様にとって平成27年が輝かしい年で有りますように心よりご祈念申し上げます。さて昨年6月に第40代理事長として就任させて頂いてから、早くも半年が経過致しました。機械電気科(萌芽会) 卒としては初代の理事長として、26、27年度代表理事を務めさせて頂いております。この2年間微力ではございますが、粉骨砕身して一般社団法人浪速工業会と母校都島工高の為に尽くしていきたいと考えております。都島クラブの会員の皆様のご支援とご援助を心よりお願い申し上げます。

この度は都島クラブ会報(Mニュース)が、記念すべき節目の第50号を発行されました事に心よりお慶び申し上げます。年2回の発行を途切れも無く継続されたのは、「旧関東支部」時代の古き良き先輩はじめMニュースのスタッフの皆様の努力の賜物であったと思えます。今後も末永く100号に向けて継続される事を期待し、貴都島クラブの更なる発展を心よりお祈り申し上げます。小生も貴都島クラブの総会には、母校100周年前の平成18年1月に広報部長として、東西懇親旅行の参加のお願いに当時の森田理事長と一緒に出席させて頂き、又昨年4月には副理事長として山崎前理事長と出席させて頂きました。今年も理事長として貴総会に出席させて頂く予定にしております、今から楽しみにしております。振り返って見れば都島クラブ会報(Mニュース)は小生にとって非常に刺激になった会報誌と記憶しております、本部「浪速工業会報」

の編集部長を担当していた平成23年に本部誌138号をダブロイド版よりA4サイズ版に変更及びカラー紙面を増刷したきっかけは当「Mニュース」の影響であったと思います。今後も「都島クラブ会報 Mニュース」と「浪速工業会報」がお互いに切磋琢磨し合いながら、浪速工業会員の皆様へ愛されて読まれる会報誌になる事を強く期待しております。

Mニュース50号のお祝い

M 34 石川 芳夫



母校創立80周年行事として東西合同懇親会に向かうバスで、関白ニュース(0号〜3号まで発行)を配られたことが話題になり、その後各科の先輩諸氏が話し合われて関東浪速工業会の機関誌として装いも新たに「Mニュース」(A28岡田宏三さんのデザイン)が平成元年6月創刊号のスタートとなりました。先人たちの思いは、関東浪速工業会という組織が一つの人脈を作る場として役立つように、そして「Mニュース」が人脈を育て上げるメディアとしてその役割を果たすことを期待されておりました。関白ニュース、Mニュースの創刊号には編集委員として関わられたことを誇りに思います。都島クラブの発展と「Mニュース」が同窓の絆をさらに強くすることを祈念しております。

都島だより Mニュース創刊号 1989年(平成元年)6月発行

都島だより KANTO NANIWA KOGYO KAI NEWS 1989年(平成元年)6月 創刊号

Mニュースの想い出



A 47 西口 勝臣

早いものでMニュースも今回で50号になるのですね。最近、私は家庭の事情があつて幹事会もずっと欠席。また催し物も昨年の総会に出席させて頂いたぐらいで、幹事の皆様には申し訳なく思つておりますが、初版作成当時にお手伝いさせて頂いていた関係からか、今回「Mニュースの思い出やエピソード」という題での原稿をとってお話がありましたので、当時を思い出しながら、記憶違いもあるかもしれませんが書いてみました。興味のある方は御一読頂ければ幸いです。

このMニュース(浪速工業会の関東支部会報)発行に至つた当時の記憶はかなり薄らいでありますが、私が支部の幹事会に加わつた当時(もう25年くらい前になりますが)、既に何処かの科(機械科)だつたような記憶です。で、その科の関東支部会報を作成されていたのですが、浪速工業会関東支部全体を盛り上げるために、その会報を関東支部全体のものとして発展させ、会の動きを会員の皆さんに伝えるようにしてはどうかという話が出て始まつたような記憶があります。紙面構成や原稿編集は機械科の先輩で、新聞社に勤務しておられた方(名前を失念して申し訳ありません)が担当して頂けることになり、その手元で私が動くことになりました。なかなか作業時間が取れず、仕事から帰つて深夜作業で作つていたような記憶があります。会報の名前は「〇〇会報」では堅苦しいということで「ニュース」にしよう、それに「都島」の頭文字の「M」を付けようという感じで決まつたような記憶です。題字はデザイナーの建築科28年卒の岡田大先輩が作成して頂けることになり、今の形になりました。当時は全て切

貼りで作つており、題字の下にワープロで打ち校正を受けた原稿を貼り並べて調整して、整つたところでコピーに回すという感じで作成していました。コピーが出来上がったところで各科の幹事に送り、各科から会員に郵送してもらつたのですが、折り畳み作業、宛名書き作業、切手貼り作業などなかなか大変な作業でした。今はお手伝いできなくなつてしまつていますが、各科の幹事様大変ご苦勞様です。コピー代もそうですが、切手代が結構かかるものですから、商品券などの安売りの店で仕入れて少しでも経費を抑えるようにしていました。浪速工業会に振込まれる会費の一部が関東にも還元され、その中から捻出する訳ですから、皆さん少しでも安く上げるように努力なさつていました。このように手間暇かけて作成されるMニュースですので、どうか皆様熟読頂き、また近況を含む原稿なども幹事に送つて頂ければ幸いです。

母校卒業50年 懇親会の思い出



C 18 秋月 勝美

Mニュース発刊50回おめでとう御座います。50で思い出したのは母校の卒業50周年記念でした。参加しますと昭和18年卒が2組あり学校創設2回目の出来事との事、驚きました。その理由は、当時太平洋戦争中で男性は戦地に駆り出され国内の稼働人口が少なくなつた、その穴埋めに学徒動員の一環として卒業時期の繰上げが決まり、17年卒業予定者より規定の3月卒業が3ヶ月短縮の16年の12月卒業となり、18年卒業予定者も3ヶ月短縮の17年12月卒業。19年卒業予定者は6ヶ月短縮の18年9月卒業、20年卒業予定者は1年3ヶ月短縮で18年12月卒業となりました。以降は19年卒が無

いので開催無し、以降は5年制で20年卒から再開されています。私の入学は18年9月卒の仲間でしたが、恥かしいですが1年生で落第(留年)2年生より18年12月卒の組で過ごしました。会場でそのクラスの方々と久しぶりに談笑が出来ました。会場でクラス毎の紹介役を指名され突然の事で戸惑いました。M科では小川勝宏氏が指名されたと記憶しております。母校創立90周年、100周年記念行事で東西合同懇親会が開かれましたが詳細はMニュース16号、35号に掲載されております。(必要な方は事務局に申し込み下さい)

関東浪速工業会のエピソード



A 25 西阪 勲

Mニュース作成に当たり50回までの作成は事務局、編集の方々の大変な根気、努力の賜物と感謝申し上げます。今後共宜しくお願ひ申し上げます。

事務局の馬江氏より、Mニュースが50号を迎えるにあたり原稿の依頼があり、早速都島工高・関東浪速工業会と書いた箱に一杯の書類を開けてみた。手紙五通、封筒中身のまま十四通、冊子小包七通、紺色青覽会報二六号、二九号まで、森芳信氏より送つて来た写真他行事報告書一四通、浪速工業会報130号、140号、関東浪速工業会618と書いた表紙の名簿、2010年の年間予定の資料等々、箱ごと送ろうかと思ひ馬江氏に冗談のつもりで電話したら原稿用紙2枚か3枚位でよいとの返事があつた。当方は400字詰めB4原稿用紙を買つてきて目次年表等を作つて書くと思つていた矢先であつた。小生が東京に来たのは、昭和25年の正月に当時都島工高中野教頭やお名前を忘れてしまいました。が図書室長の先生から、東京の中西正光さん(A6卒)が後輩で上京できる人を

歴代Mニュースの歩み



第30号 2004年(平成16年)10月

第20号 1999年(平成11年)10月

第10号 1994年(平成6年)6月

面接したいと言われていて、昭和25年正月2日に上京、その後3月3日に卒業後3月5日から中西建設工業株式会社にお世話になった。会社に宿直洗濯や食事の世話をしてくれたのが小生の家内で中西社長の奥さんの姪です。当時は三菱銀行がまだ千代田銀行と云い、中西建設のあつた高田馬場の駅前地所を千代田銀行に譲り、向いに自社の建物の新築ビルが出来たばかりであつた。以後本社事務局が中央区西銀座通りを3回点々と移動した。その当時中西ブロック建築を主に東洋ブロック工業、東洋ゴセ等会社工場を各所に増やした。当時、重松さん(CI大正13卒)やカツミ堂藤本社長(A16卒)のお骨折りで関東浪速工業会ができた記憶していません。この様な関東浪速工業会のエピソードが、Mニュースが50号を迎えられた事に関係無いとは言えないと思つています。更には、事務局馬江氏と編集スタッフはじめ後輩各位のご尽力の賜物と感謝している次第です。

青春の回想



A27 田中 瑛也

私が上京後、大手設計事務所勤務を経て1963年春に設計事務所を創設した。何が縁で浪速工業会に入会したかは思い出せないが...

ことは、まだ記憶に新しい。考えれば私の人生の潮流の中に浪速工業会の人々との交流が流れていた。故人との思い出話に紙面を費やしたが、紙面の都合で言を及ぼさなかった...

縁ある結婚



ME平16 岡崎 彰

まず始めに、この度私がタイ人の女性と結婚したことをご報告申し上げます。結婚式は平成26年11月5日(水)に身内のみで、都工のそばにある都島神社で執り行いました。

れからも大切にし、これからの人生を妻と一緒に歩んでいく所存です。

少し話は変わりますが、妻の家族はタイに住んでいるため、結婚式に際し、およそ5時間掛けて日本に来てもらいました。私は事前「こんにちは」にあたる挨拶と自己紹介...

首都圏外郭放水路見学記



M36 西村 功

平成26年8月26日首都圏外郭放水路のメイン設備である調圧水槽を見学しました。この放水路は、中川・綾瀬川流域(埼玉県東部)の浸水被害を軽減するために...

道路の下に地下河川 (M34石川 芳夫) 近年、急速な都市化の進行に伴い、保水、排水機能の低下や流出形態の変化および低地部の開発などにより、比較的少ない降雨にもかかわらず浸水被害が起きている状況である...

首都圏外郭放水路埼玉恩・大津放水路(滋賀県)の事業がある。トンネル技術や水理解析技術の進歩によって、建設費や維持管理費の面で開水路よりも経済的な圧力管方式で主に施工されている。他の構造物と幅が異なるので必然的に大深度五十メートル位に大きなトンネル(直径六・十四メートル)をつくることになる...



見学した本施設は、1999年5月発行のMニュース第19号において、建設に携わられたM34石川芳夫氏により記事として掲載されました。(編集担当より)

見学会



首都圏外郭放水路・調圧水槽内にて

名で、巨大な地下水槽の中に入りまるで地下神殿を思わせる神々しい雰囲気圧倒されました。

# 関東青葦会 横須賀美術館見学に参加して



A 平21 島山 稜

平成26年10月4日(土)に神奈川県横須賀市郊外の横須賀美術館見学と、観音崎界隈の温泉入浴施設での懇親会に参加させていただきました。参加予定者リストで卒業年度を確認したところ自分の名前の欄だけに「平」がついていたのにびっくりしました。皆さんもご存知かと思いますが横須賀美術館は山本理顕の初の美術館作品で、2009年度日本建築家協会賞を受賞した建築物です。建物の前後に「海の広場」「山の広場」という芝生広場があり、あたかも海と山を繋いでいるような印象を受けます。建物に入ると壁や天井に円形の穴が幾つも空いていて、天気がいい日は森の深い緑や青い海、空のいろいろな表情を感じ取れます。また壁と天井のコーナーが緩やかな局面となっていて、包まれているような柔らかな空間となっています。建物の中にも常にもまわりの自然環境を感じる事ができるような開放的な美術館となっているので、誰でも気軽に立ち寄れる場所だと思えました。設計に携わっている私にとって勉強になることがいっぱいありました。その後、温泉入浴と懇親会を行う横須賀温泉・湯葉の里に向かいました。初めは緊張してなかなか話すことができませんでしたが、先輩方から気軽に話しかけていただき緊張が解け、いつの間にか自分から話すようになっていました。先輩方が東京にきた経緯や仕事の話などいろいろ話を聞くことができ、楽しい一時を過ごしました。上京してきたときは、こちらには友人はいなかったのですが3年でたくさんの人と出会い、様々なことを経験し人との出

会い、繋がりがいかに大事なのかを学びました。今回関東青葦会に初参加させていただき改めて都工の繋がりは他の学校にはない強みだと感じました。これからこの良さを後輩にも伝えていけたらと思っています。

## 青葦会



A28岡田氏とA平21島山氏のツーショット



横須賀美術館にて

# 清井英治様を偲んで

M 36 西村 功

別掲(計報記事)の通りA27年卒清井英治様が、平成26年8月5日にお孫さんと山に出かけた折、不慮の事故でお亡くなりになりました。清井様は都島クラブの諸活動に仙台より積極的に参加され、特に一泊懇親会では近年毎年参加頂き、夕食後の懇談では物事の真実は何かと熱く語られ一同大いに勉強をしいつも楽しみに拝聴したものです。その一端を昨年の総会において特別講演「テレビもやま話し」としてご披露頂いたのは記憶に新しいところです。また、お逢いたあとと必ず自筆の楽しい絵入りの手紙を頂くのも、ご性格が偲ばれる貴重なものであります。この絵の延長上として最近百人一首の一句ごとに添え絵を付した物を完成されており、参考までに添付します。もうあの毒舌的な射たお話しと、このような愉快な絵に接することが出来なくなるのは誠に残念ですが致し方ありません。どうか学生時代のこと、仕事のこと、ご家族のこと、退職後のことと色々あった人生を思い出しながら安らかにお休みされることをお祈り申し上げます。



清井氏制作の百人一首

平成26年4月5日にA46柚木寿雄氏が主宰する「くにたち自游工房」で開催した15回目の陶芸会で制作した作品の焼成が無事完了し、10月18日に参加者5名が国立駅に集まり作品の受取りを行いました。



完成した陶芸作品

# 陶芸作品の焼成完了

A 57 信原 利行



昨年総会にて講演中の清井氏



清井氏制作の自画像

一泊懇親会報告

今年の一泊懇親会は房総半島へ

M 36 西村 功

平成26年10月26、27日に一泊懇親会を休暇村館山と鴨川シーワールドで行いました。総勢7名、内E42年卒の松本さんは房総半島を自転車で走破しての到着です。いつもながら彼の健脚ぶりにはびっくりします。ここ休暇村館山は夕日の絶景ポイントなのですが当日は残念ながら雲に隠れておりました。バイクキングの夕食後は日本シリーズを見ながらワイワイと懇談の時間が過ぎてゆきます。翌日は鴨川シーワールドの見物です。イルカのダイビング、シャチと調教師のコラボレーションには只々驚くばかり、人と動物との意思の交換に不思議な感動を覚えました。

この一泊懇親会はなるべく多くの会員の皆さんに参加頂けるよう日にちの設定、場所の選定等に配慮しておりますが、まだまだ皆さんのご意見の反映が十分でない点があるかと考えますので、自由にご意見を事務局に寄せて頂くようお願いいたします。



一泊懇親会・休暇村 館山にて



Kamogawa SEAWORLD 鴨川シーワールド

桂米左独演会



E 36 石垣 英明

上方落語



上方落語界で活躍中の桂米左（A59卒木村佳氏）の独演会が平成26年11月16日（日）浅草寺の北の昔花街だった場所、浅草見番の座敷で開かれました。都島工高出身の落語家を応援するため寄席に行き、久しぶりに生の落語を堪能しました。浅草見番は、踊りが披露されるところで寄席とは少し違った味わいの場所でした。桂米左師匠の演目は「くしやみ講釈」と「住吉駕籠」の2席でした。「くしやみ講釈」は、主人公が講釈師を困らせようと、仕返しをするためコシヨウを買いにいったが品切れで、代りに唐辛子を購入して講釈場の一番前に陣取って唐辛子の粉を火鉢にふりかけると、講釈師はくしやみがでて困りはてた。落ちば、講釈師がなにか故障がありかと思ねると、コシヨウがないから唐辛子ということでした。もう一つの「住吉駕籠」は、住吉街道で駕籠屋が茶店の前で客に声をかけている。ある駕籠屋、相棒は新人だ。相棒が用を足しにいつている間に、客に声をかけるように言われ声をかけるが、ゴミを捨てに言った帰りの茶店の親父に駕籠を勧めて怒鳴られる。その後も冷かされたりして、なかなか客がつかない。そんな時酔っぱらいがやってくる。新人に声をかけないよう注意するが、声をかけてしまう。酔っぱらいは同じことを何回も話したり、揚げ足を取ったり駕籠屋を困らせるといふストーリーでした。当日は浪速工業会「都島クラブ」から、赤尾さん、西村さん、小林さんがお越しになりました。その他、遠近各地より60名ぐらいのお客様がお越しで盛況でした。桂米左の落語

を聞くのは2度目でしたが、年々話し方がスキルアップしており、落語家として精進されているのに感心いたしました。楽しい一日をすごすことができました。



桂 米左氏



独演会会場の浅草見番

秋のゴルフコンペは中止しました

11月26日（水）泉カントリー倶楽部にて9名の参加を得て実施予定でしたが、前日の天気予報で悪天候が予想されたため中止しました。参加を予定されていた方々にはご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。なお、次回は4月下旬に開催予定（コース未定）で改めてご案内いたしますのでよろしくお願いたします。

E 36 竹村 繁幸

事務局よりお知らせ

M科26年卒・上田英雄氏より下記の本の寄贈がありました。

- 【都の葦】（卓話集）第1輯 発行（社）浪速工業会・理事会 1冊
- 【都の葦】（語り草・笑い草）第2輯 発行（社）浪速工業会・（内） 1冊
- 【都の葦】の生い茂り第4輯 発行（社）浪速工業会・（内） 1冊

C科18年卒・秋月勝美様より下記のDVDの寄贈がありました。

- ★必殺仕事人・故金田龍之介氏出演 他5編1枚
  - ★太平洋戦史 6編1枚
  - ★連合艦隊 1枚
- 以上を貸出いたします。ご希望の方は事務局までお申し込みください。但し郵送代（往復分）はご負担下さい。



訃報

E34年卒	塚本 克美氏	平成25年4月
E35年卒	有川 誠造氏	平成26年7月
A24年卒	山口 義明氏	平成19年7月
A27年卒	清井 英治氏	平成26年8月
A36年卒	若林 衛氏	平成26年9月

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

次号のMニュースは平成27年7月発行予定です。

皆様の原稿をお待ちしています！事務局までお送りください。

事務局メールアドレス

har1942umae@iris.ocn.ne.jp

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ事務局・馬江 治喜